

TPPへの参加で もっと豊かな日本を



TPPは世界の国々のつながりの一つです。

世界では今、関係の深い国同士でより深くつながるための貿易や投資のルール作りが盛んです。アジア太平洋地域の国々がつながろうという「環太平洋パートナーシップ協定(TPP)」もその一つ。政府の試算では、日本のTPP参加で、日本の実質GDPは少なくとも2.7兆円増加します。新しい貿易・投資のルールの仲間に入って、もっと豊かな日本を作りましょう。

日本を豊かにした世界とのつながり。それはこれからも必要です。

戦後、日本は、世界の自由貿易体制のもとで奇跡とも言われる経済復興をとげました。しかし、まだまだ、外国に商品を入れるときに税金(関税)がかかったり、ルールの違いでその国に進出できないことがたくさんあります。貿易や投資がより自由に行えるようになることで、お互いの国々の経済が発展します。日本でも、さまざまな商品の生産量が増え、働く場が増えて収入もUPします。そうなれば、農産品も含めた消費が拡大します。また、輸入品の値段が下がり、国産品も品質を高める努力がなされ、消費者はいろいろ選べるようになります。

TPPについての
正しい知識と
情報を!

- 日本の農産品はなくなりません。
- 日本の医療制度とは関係ありません。
- 食品の安全基準の緩和は議論されていません。

詳しくは裏面に!

TPPについて一緒に考えてみませんか?

TPP交渉への早期参加を求める国民会議

<http://tpp-kokumin.jp/>



TPPについての正しい知識と情報を！

日本の農産品はなりません。

1991年に牛肉やオレンジが自由化され、日本の食卓から、和牛肉やみかんが消えると心配されましたが、消えませんでした。むしろ、和牛肉の種類も増え、一方で外国の牛肉も食べられるようになるなど、私たちの食はますます豊かになりました。

世界の国々は今、輸入食品に高い関税をかけて輸入を抑える方法から、国の財政措置によって農家を支えるようになっていきます。

日本も、みんなで知恵を出し合って、貿易の自由化で食品を安く買えるようにしながら、同時に、農家も安心して農業が続けられるよう、自由化と農業の両立を考えるべきではないでしょうか。



日本の医療制度とは関係ありません。



混合診療の解禁や株式会社の医療参入などを懸念する声がありますが、TPPではそれらは議論されていません。

世界貿易機関(WTO)のルールや、これまでに締結された2国間の経済連携協定でも、国が提供する医療保険(国民皆保険制度)は交渉の対象外となっています。TPPでも、アメリカは、医療保険制度の民営化や混合診療を日本に要求しないと明言しています。

日本の医療制度は、日本が自ら決めることです。

食品の安全基準の緩和は議論されていません。

TPPでは、輸入食品の安全性を検査する検疫の手続きの方法や、食品安全を守るルールを徹底しようということが話し合われています。

日本の高い食品安全基準が他国に合わせて引き下げられるという声がありますが、日本は、日本独自の基準を設定できます。これは、国の権利としてWTOでも認められています。

また、仮に食品安全基準が議論されても、まとめるには全ての国の合意が必要です。交渉では、食の安全に厳しいオーストラリアやニュージーランドと協力するという戦略をとることができます。



TPPについて一緒に考えてみませんか？

TPP交渉への早期参加を求める国民会議

<http://tpp-kokumin.jp/>



環太平洋パートナーシップ協定 Trans-Pacific Partnership (TPP) とは？

- アジア太平洋地域の国々が集まり、貿易や投資の新しいルールづくりを目指して交渉を進めています。
- 現在の交渉参加国は、シンガポール、ニュージーランド、チリ、ブルネイ、アメリカ、オーストラリア、ペルー、ベトナム、マレーシア、メキシコ、カナダの11カ国。日本は、2013年3月、TPP交渉参加の意思を表明。2013年4月、交渉参加国は日本の参加を承認。
- 参加協定中の国も加えると世界のGDPの約4割の国がつながります。